園長と語ろう

―大好きな人形劇―

園長　家田　美里

一月の初めの三連休にむらさき幼稚園・名誉園長（初代園長）の家田タカ子先生の十三回忌の法要がありました。私にとっては伯母になります。この平成二十五年度は、五月に伯父であり創設者でもある初代理事長の家田隆現先生が亡くなり、むらさき幼稚園にとってはとても大きな悲しい事が続きました。しかしその当時は悲しんでいる暇などなく、二人を送る事で必死でした。むらさきにとっては理事長先生・園長先生ですが、その前に「西雲院」という大きなお寺を守ってきた二人です。表葬はそれはそれは驚く事ばかりでした。参列者が多い事はわかっていましたが、何よりもあんなに沢山のお坊さんが一斉にお経をあげると迫力が違います。低い音でお腹の底から出された声は地鳴りのように響き、圧巻でした。お寺のお葬式は本当に凄かったです。

さてそんな二人ですが、今いる職員もほとんどが会った事がなくよく知りません。卒園児である保護者の方のほうがご存知では?と思います。私がむらさきに来た時には園長先生は光信先生でした。在園の時はタカ子先生でしたが半世紀前(!?)の事はなかなか思い出せません。いつもニコニコしていたという記憶をしぼり出すのが精一杯でした。むらさきに入ってから聞いた事ですが、当園のクラス名は○○のくみと言い、全て○○ぐみなどの濁点がついておりません。これはタカ子先生が濁点で濁るよりも音の響きが優しく、子ども達にはいいのでは…とつけたクラス名だそうです。

隆現先生とは十五年以上むらさきで一緒で、その間に私が見て感じた事を少し今の皆さまに聞いてもらえたら…と思います。私が職員として入った時には毎日出勤ではありませんでしたが、園にいる時はベレー帽がトレードマークで「ヒャッ、ヒャッ、ヒャッ」と笑いながら、子ども達と話しをしていました。教員反省会では「えっ?見てた?」と思う程、子ども達や私達の事を鋭く言い当て、そばで聞いていた私は「これぞプロ」と思っていました。隆現先生はたのしいなつやすみにありました「たぬきどん」の作者であり「ゆりかご」という人形劇団もされていて、よく子ども達に見せてくれていました。人形は全て手作りで、人間でも動物でも頭にだけ棒がついており、首から下はブラブラしていて動きが読めず、少し動くだけでも子ども達は大笑いでした。何故かおばあちゃんの人形の顔は祖母にそっくりで誰よりも親しみがありました。行事がある時に見せてもらっていましたが、クラス懇談会はわざわざドライブに出掛けなくても大丈夫で、人形劇の中で後ろにずる賢いキツネがいると「うしろー」と叫び全員で楽しんでいました。それ以上に見せてもらったのが腹話術です。むらさきの制服を着た「ゆうちゃん」との掛け合いが楽しく、子どもだけでなく大人もゆうちゃんの世界に引き込まれていきます。ゆうちゃんと隆現先生と見ている私達も含めてお話が進み、時間はあっという間に過ぎてしまい「もうおわり?」とよく言ってました。実はこの人形劇と腹話術がビデオになっています。（五十周年の時にはＤＶＤになりました）今の子ども達にも見せてあげたいと思い遊戯室で上映をします。相変わらず子ども達は大爆笑です。しかし見ているだけなので、あの私達との掛け合いができないのがとても残念です。ゆうちゃんと話す事は当たり前でした。その時はただ楽んでいましたができなくなり、それがどれだけ贅沢だったのかという事に気づかされました。

前に一度、ドライバー兼助手として隆現先生の人形劇の公演について行った事がありました。舞台の裏側は私の想像以上に過酷なもので、七十歳を過ぎているおじいちゃんができる事ではない!!と助手は一回で音をあげてしまいました。本当に子ども達の笑顔や笑い声が好きなのだと思いました。これが私のむらさきでの隆現先生との一番の思い出です。まだ聞いてほしい事はたくさんありますが、いろいろ思い出していたら又、久しぶりに子ども達と人形劇が見たくなりました。

今は遊戯室の阿弥陀様の横で隆現先生とタカ子先生とゆうちゃんがみんなを見守ってくれています。今日も「ヒャッ、ヒャッ、ヒャッ」と笑いながら…。